

# 浴衣の金魚

人  
物

赤根優里香(21)大学生

城野誠(21)赤根の大学の同期

桃井れいら(21)優里香の友人

青畑茉莉(21)優里香の友人



○夏祭り会場・神社・鳥居前（夕）

赤い鳥居がライトアップされ、奥に屋台が多く並んでいる。浴衣を着た男女や元気な子供たちが多く歩いている。

○同・境内（夕）

多くの屋台が並び賑わっている。浴衣姿の赤根優里香（21）、私服の桃井れいら（21）、青畑茉莉（21）が楽しそうに騒ぎながら歩いている。優里香の視線が金魚すくいの屋台に留まる。

優里香「あ、金魚すくい！やらない？」

茉莉「おーいいね」

れいら「やるやる」

優里香を先頭に金魚すくいの屋台へ向かう三人。

帽子を目深に被った城野誠（21）が店番をしている。

城野「いらっしやい」

城野、目線を上げて優里香を見て驚いた表情。

優里香「金魚すくい三人分お願いします」

ぽかんとする城野。優里香、城野を見て

優里香「あれ、城野くん。なになに、バイト？」

我に返る城野。咳ばらいをして無表情になり、ポイを用意する。

城野「まあそんなところ」

れいら「（優里香に）知り合い？」

優里香「うん、同じゼミ。（城野に）ね」

城野「（ぶつきらぼうに）まあな。一人

300円」

優里香が支払いポイを受け取る。

れいら「（小声で）なんか無愛想な奴」

優里香「そう？別に気にならないけど」

茉莉「ねーそれより早くやろ！」

優里香からポイを受け取ったれい

ら、前のめりに陣取る。

れいら「よおし、いっぱいすくうぞ」

茉莉「れいらちゃん自信満々だね」

れいら「小学校の頃、よくやってたんだ」

優里香「すごいな。私初めてだよ。上手くできるかな」

優里香、れいら、茉莉、思い思いに金魚すくいを始める。

れいらは素早く金魚をすくう。

茉莉はゆっくりと、確実にすくう。

優里香はすぐに破れてしまう。

優里香「あー！」

茉莉「優里香ちゃんざんねーん」

優里香「悔しい！もう一回！」

城野、ポイを優里香に渡しなが  
城野「ポイは斜めに、一気に水に入れた  
方が破れにくい」

優里香「えっ」

城野「あと、壁際の水面近くの金魚が狙  
いやすい」

優里香「あ、ありがとう」

城野、すぐに目を伏せてしまう。

れいら「教えてもらうなんていいなあ」

茉莉「れいらちゃんは教えてもらえないじ

ゃん」

優里香、教えてもらったとおりに

やって金魚をすくってみせる。

優里香「できた！（城野に）ありがとう！」

優里香、城野に微笑む。

城野、照れたように目を伏せる。

はしゃいでいる優里香たち。

○同・境内（夜）

空が暗くなり、人が増えている。

和太鼓の演奏と参加者の盛り上がる声が響いている。

水風船や金魚をぶら下げた優里香、

周囲を見回しながら屋台通りを歩

いている。

優里香「どこに行っちゃったんだろ」

スマホで電話をかけながら歩く。

優里香「出ない！もう！」

怒りながら歩く優里香。

優里香、後ろから歩いてきた人がぶつかり転んでしまう。

優里香「きゃっ」

立ち上がる優里香。

歩こうとするが下駄の鼻緒が切れ、てしまっている。

優里香「えーマジ？どうしよう」

泣きそうになり立ち尽くす優里香。

城野の声「あれ、赤根？」

優里香が顔を上げると屋台の荷物を持った城野が立っている。

優里香「城野くん」

城野「一人？一緒にいた子たちは？」

優里香、しやがみこんで泣き出す。

慌てる城野。

城野「え、ちよっとどうした？」

膝をつく城野。優里香の足元を見



て鼻緒に気付く。

城野「ああ：これじゃ歩けないな」

優里香「皆ともはぐれちゃったし：さみ  
しかったよう」

城野「待ってる、これくらいなら直せる  
から。触っていいか」

城野、荷物から手拭いを出して鼻  
緒を直し、そっと履かせてやる。

城野「どうだ？」

優里香、立って足踏み。

優里香「歩けそう」

城野、うなづく。

城野「ちよつと店じまい済ませてくるか  
ら、しばらく待てるか」

優里香「え？」

城野「友達。一緒に探してやるよ。一人  
だと危ないだろ」

優里香「あ：うん」

城野、荷物を抱えて去っていく。  
優里香、道端に腰を下ろし城野を

待つ。てぬぐいを結ばれた下駄を撫でる。

○同・境内広場（夜）

和太鼓の音と大松明に点けられた炎で盛り上がっている広場。

優里香と城野、辺りを見回しながら歩く。

優里香「こつちにいると思うんだけどな」

城野「あっちも行ってみよう。はぐれな  
いようにな」

城野、優里香の手を引く。ふと氣付いて慌てて手を放す。

城野「わ、悪い急に！」

優里香、笑って手を差し出し

優里香「はぐれるの怖いからつないで？」

城野「おう！」

城野、手をつなぐ。

歩きながら城野を見上げる優里香。

優里香「ごめんね、面倒につき合わせち

やっつて」

城野「気にするな」

優里香「学校じゃわからなかったけど、城野くんて優しいんだね。鼻緒まで直してくれて。普通ここまで付き合ってくれないよ」

城野「前を向いたまま小さな声で城野「それは：お前だったから」

優里香「え、なあに聞こえない」

立ち止まる城野。優里香も驚いて立ち止まる。

優里香、不思議そうに城野を見る。

城野、振り返る。真っ赤な顔。

城野「好きな女が困ってたら、助けたくなるだろうが普通！」

優里香、目を丸くする。

城野、恥ずかしそうに目を逸らす。

優里香「それって私のこと？」

城野「う、うるさい。忘れてくれ」

城野、背中を向ける。

優里香、前に回って顔を覗き込む。

優里香、笑う。

優里香「真っ赤だよ、城野くん」

城野「ひ、火のせいだ」

優里香、城野の頬を手で包む。

城野、体が強張る。

優里香「耳まで熱いよ？」

城野「ばかそこはほっとけよ！」

優里香「ふふ、ごめんね」

れいらの声「優里香ー！」

れいらと茉莉が広場入口から手を

振っている。

優里香「あ、見つけた！」

優里香、大きく手を振り返す。

優里香「行くね」

城野「ああ」

優里香、行こうとして立ち止まり

城野を振り返る。

優里香「後でメールするね！誠くん」

城野、目を丸くする。

優里香、笑顔で手を振り去っていく。  
城野、優里香の背を見送る。

城野「やべ、反則」

城野、にやけそうになる口元を必  
死で抑える。

優里香、れいら・茉莉と合流する。

優里香「会えて良かったあ」

れいら「何の話してたの？」

優里香「ん？一緒に探してもらってただ

けだよ」

茉莉「なんか怪しいんだあ。やけにご機

嫌じゃない？」

優里香「何もないよー」

優里香、先に立って歩きながら手  
に持っている金魚を見つめる。

優里香「（金魚に）ねー？」

優里香、嬉しそうに微笑んで歩き  
出す。

了